

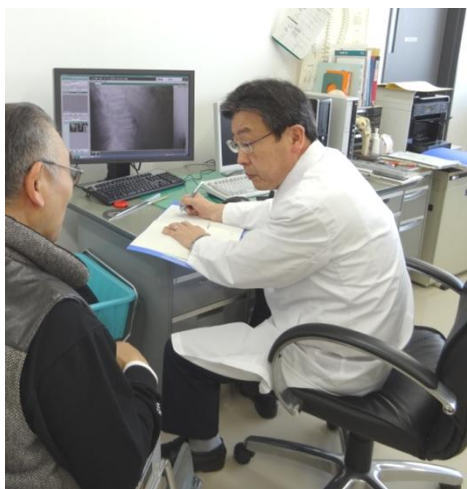
# リハビリテーション支援センター 附属診療所における障害者クリニック

リハビリテーション支援センター

○西嶋 一智、 檜本 修



# リハビリテーション科専門医による 障害者クリニック



- 肢体不自由の方の障害状況評価、診断、医療相談
- 高次脳機能障害評価、診断
- 各種リハビリテーションに関する診療
- 補装具に関する診療(補装具外来・クッション外来など)
- 身体障害者年金申請診断書についての相談・作成
- 精神障害者年金申請診断書についての相談・作成
- セカンドオピニオン など



# 本日の話題

## ■「痙縮外来(ボツリヌス療法)」

➤ 医療としての事業

## ■「障害者検診」

➤ 福祉としての事業

本日のKey Wordは

医療への差し戻し

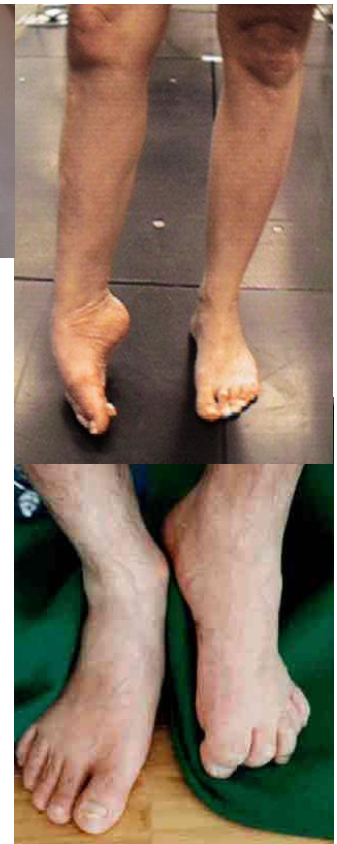


# 痙縮外来 (ボツリヌス療法)





# 痙縮



## ■ 脳や脊髄の損傷で「麻痺」が生じる

➤ 動かそうとしても、力が入らない

➤ 余計なところに、力が入ってしまう

- 円滑な運動の障害

- 可動性の低下、「動かさない」

- 強すぎる腱反射

- クローヌス、「勝手に動く」

- 疼痛

- 「突っ張って痛い」

この「痙縮」を  
ボツリヌス療法  
で抑える



# ボツリヌス療法

## ■ボツリヌス毒素を少しだけ使って、過剰な筋肉の緊張による症状を抑える治療法

- ▶リハビリ科領域： 手足・体幹・頸部のつっぱりによる動きの制限・痛み（**痙縮**）を抑える
- ▶美容整形領域： 顔の小じわをとる

もともとは食中毒「ボツリヌス中毒」の原因物質  
この世で最も強力な毒物（致死量が極めて少ない）  
筋肉を弛緩させる作用がある



### 2-4. 痙縮に対するリハビリテーション

グレードA:

強く推奨される治療法

#### 推奨

1. 片麻痺の痙縮に対して、ダントロレンナトリウム、チザニジン、バクロフェン、ジアゼパム、トルペリソンの処方を見ることが勧められる(グレードA)。顕著な痙縮に対しては、バクロフェンの髄注が勧められる(グレードB)。
2. 痙縮による関節可動域制限に対し、フェノール、エチルアルコールによる運動点あるいは神経ブロック(グレードB)およびボツリヌス療法(保険適用外)(グレードA)が勧められる。
3. 痙縮に対し、高頻度のTENS(transcutaneous electrical nerve stimulation：経皮的電気刺激)を施行することが勧められる(グレードB)。
4. 慢性期片麻痺患者の痙縮に対するストレッチ、関節可動域訓練が勧められる(グレードB)。
5. 麻痺側上肢の痙縮に対し、痙縮筋を伸長位に保持する装具の装着またはFES(functional electrical stimulation：機能的電気刺激)付装具を考慮しても良い(グレードC1)。
6. 痙縮筋に対する冷却または温熱の使用を考慮しても良いが、十分な科学的根拠はない(グレードC1)。



# ところが...

専門医

## ■ リハビリテーション科医が少ない！

- ボツリヌス療法を適切に実施できる医者が非常に少ない

## ■ 現実には、未治療のまま痙縮が放置されていることが少なくない

- 治療の存在すら知らされずにいる場合も多い
- PT・OTから推奨されて治療に至ることも少ない





# 補装具判定の場で...

## ■ 適応がある人にボツリヌス療法を提案

➤ 治療導入を希望すれば、附属診療所(あるいは他の医療機関)で治療へ

➤ 治療を受ける機会・選択肢を提供する

- 通院の手間や治療費の問題から「治療を受けない」選択をするのは自由
- 選択肢すら与えられず、結果として「放置」を強要されている現状が問題



# 当診療所でのボツリヌス療法

- 2013年7月下旬より開始
- これまで11例18回の施注（今年2月13日現在）
  - 当院かかりつけで外来リハ中            4例8回
  - 補装具判定を機に                            5例7回
    - 所内相談                                    4例
    - 巡回相談                                    1例（気仙沼巡回から）
  - その他、外来受診から                      2例3回
- ✓ 今後も補装具判定からの治療導入が増えると思込まれる（月に1人程度か？）



# 痙縮外来の意義

- 補装具判定を機に、ボツリヌス療法を受ける機会・選択肢を提供した
  - 福祉での関わりの中で、これまでは見過ごされていた適切な治療を受ける機会・選択肢を再び提供した
    - ・ 治療の受け皿となる医療機関も併せて提示した
  - 福祉と医療が力を合わせて、生じている問題を解決の方向へ導いた

医療への差し戻し



# 検診通じ身障者支援

## 宮城県リハビリセンター、初の試み

昨年9月、宮城県リハビリテーション支援センター(名取市)で、身体障害者の運動機能悪化予防を目的とした「障害者検診」が初めてあった。初年度は、手足にまひがあるポリオ後遺症でつくる団体、仙台ポリオ会、を対象に試行的に実施された。身体に障害のある人を継続的に支える検診事業は全国的に珍しく、実施主体のセンターは今後も対象を広げよう方針だ。

「痛みのあるところはありませんか?」「筋力の低下を感じますか?」ポリオ後遺症は30代までは症状が比較的安定しているため、かかりつけ医がいなくなると、中年以降に、急激に筋力が低下する。その後遺症「ボストリポリオ症候群」(PPS)の不安がある。障害者検診の問題では、医師がPPSを念頭に身体の変化を確認した。

宮城県リハビリテーション支援センターは障害者のリハビリ支援や生活相談に応じる施設で、検診事業は業務外だった。昨年4月の新築移転を契機に、障害者専門クリニックの機能を拡充し、今回の実施につながった。



宮城県リハビリテーション支援センターであった障害者検診。補具の使用状況の確認も行われた。(同センター提供)

## 運動機能の悪化を予防 ポリオ皮切り、新年度対象拡大

live  
とほく

計測、生活動作の自立度を点数で示すアンケートも実施。検査項目は多岐にわたる。検診は無料、より詳しい検査が必要な場合は医療保険で対応する。

今回の受診者のうち、PPS診断基準に該当したのは9人、医師はリハビリなどを勧めた。PPSと診断されなくても、まひを控えながら生活する受診者に対し補具の活用などをさまざまなアドバイスを行う。

PPSの疑いを感じられた60代の男性は、検診で体の状態を客観的に知ることができた。定期的にアドバースをもらえれば、生活の質を高めることができると思う」と語る。

身体障害者の機能維持を目的としたこうした検診事業は異例という。リハビリテーション支援センターは14年度以降、他の障害者団体にも対象を広げていく方針。主な検査項目は原則同一だが、障害によって個別にアドバースする。

センターの標本所長は「障害が固定して医療機関から長く離れる人は多い。障害者の健康管理は健常者以上に丁寧さが求められる」と、検診の意義を強調する。

宮城県身体障害者福祉協会の登正義会長も「脳性まひなど他の障害者にも欠陥の問題があるが、知識がないと加齢のせいにしてしまうことがある。機能維持のための継続的な検診は有用だ」と話している。

河北新報 平成26年2月12日(水) 朝刊

# 障害者検診



# 検 診

- 健康状態の維持、疾病の予防・早期発見
  - (通常の)健康診断、がん検診など
- 高齢者の運動機能の維持、介護量増大の予防・早期発見
  - 介護保険での介護予防、維持期リハビリ
- 障害者の残存機能の維持、機能障害増悪の予防・早期発見
  - 今回は、障害者福祉として「**障害者検診**」という形で実施



# 障害者検診

## ■ 障害者福祉事業として試行的に実施

➤ 検診費用は無料

➤ リハ支援センターのクリニック班で実施

- 9名のスタッフ： リハ医2名、保健師1名、看護師2名、PT2名、OT1名、ST1名
- 個別予約制： 1人30分の予定で1日4名

➤ 今年度は、「仙台ポリオの会」に参加を呼びかけた

- 国内各地で行われている「ポリオ検診」を参考に



# 検診項目

- 身体計測：身長、体重、BMI
- 血圧、肺活量、血中酸素飽和度
- 筋力、関節可動域、四肢長・周径
- ADL： FIM運動項目、  
Frenchay Activities Index (FAI)
- QOL： 日常生活満足度 (SDL)、SF-36
- Halstead診断基準 (ポストポリオ症候群評価)



# 四肢計測、装具診





# 受診者数

■ 受検者数： 34名

呼びかけた相手の3/4が受検

・ 仙台ポリオの会会員の76%

➤ 女性 17名、 男性 17名

➤ 平均年齢 63.0±4.5歳 (54～73歳)

➤ ポリオ罹患者 27名

その他の疾患 7名

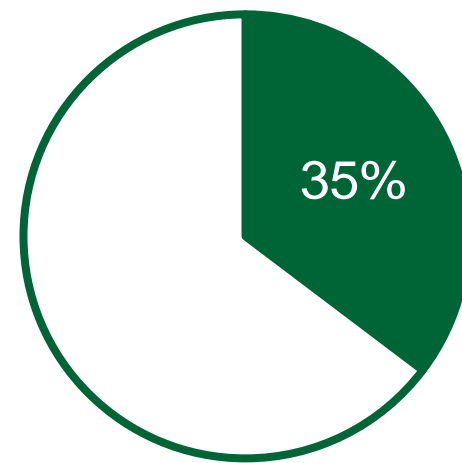


# 検診結果

## ■ 12名(35%)が外来診療へ

- X線撮影での骨・関節の評価
- 疼痛に対する薬物療法の導入
- 外来でのリハビリテーション介入
- 装具の作製(医療保険、身障手帳)
- 身障手帳の等級変更
- 定期的な外来フォロー

## ■ 1名に保健師の栄養指導



# 医療相談・レントゲン撮影



変形性脊椎症  
変形性膝関節症  
変形性足関節症  
などの医学的診断



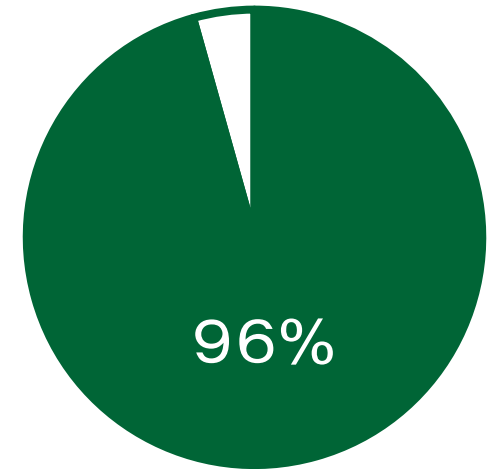
# アンケート

## ■ 終了後にアンケートを実施

＜23名（68%）が回答＞

### ▶ 「次回も受検したいか？」

- はい: 22名（96%）
- わからない: 1名 「遠くて不便なので…」



- ✓ 多くの方が検診を受けたことで安心され、  
今後も継続しての受検を希望された

受検者の反応は**極めて良好**であった



# 今後の展開

## ■ 来年度以降は真の「障害者検診」へ

- 原疾患をポリオに限定する必要はない
- 検診で得た障害状況の詳細かつ定期的に更新される情報を、障害者福祉全体で共有して「地域リハ支援」などに有効活用していきたい
- 必要な人がリハビリ科等を受診する契機としたい

医療への差し戻し

宮城県発の新しい身障手帳サービスとして「**障害者検診**」を！



# まとめ

- 今年度、新たに開始した2つの事業  
「痙縮外来(ボツリヌス療法)」「障害者検診」  
について説明した
- 「福祉」の場で生じている問題を、必要に応じて「医療」に差し戻して協同で解決に向かわせられるよう、その橋渡しとなる意義を障害者クリニックは持つと考える

